晋・恋姫†無双

司馬雛乱達

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
晋・恋姫†無双

【Ｎコード】
Ｎ９３１９Ｚ

【作者名】
司馬雛乱達

【あらすじ】
お試し版、晋・恋姫無双の連載版
お試し版とのの変更点
・主人公司馬懿の口調
・幼少期の描写
・藍川護の登場予定など

そのふざけた幻想・・・受け入れます（泣）

「貴方の名は聖歌よ」
「あぶあぶ？あうぁ？（えっ？えっ？何の事っすか？）」

目が覚めると俺は黒髪赤目の美女に抱きあげられて名を付け入られていた。
……はぁ？！
意味が分からねえぞ。
もしかしてコレって転生、とかいうやつか？だとしたら俺は死んだのか……。
まあ、たいして思い残すことはなかったし、こうして転生できたんだから良しとするか。
それにしてもなんか俺の名前って女みたいだな…。

「聖歌ぁ～、どこへ行ったの？出てきなさ～い」

あの意味の分からないことから三年経ったのです。
今、私は姉の愛歌お母様から隠れているのです。
えっ？口調が違う？
それはですね、私はどうやら女の子に転生していたようなのです。

……それでこの口調は愛歌お母様に教育された結果なのですよ…。
……Ｙｅｓしかない選択肢がこれほど辛いものだとは知らなかったのですよ。
ああ、それとどうやらここはあのエロゲー…え～っと、恋姫無双の世界らしいなのです。
恋姫って確か有名どころの英雄が女体化してるとかいうやつだったと思うのです？
まあ、その恋姫に転生したのですよ。
それで私が隠れているわけはこの子に有るのです。
白い毛並みに紅い瞳、そして体から噴き出る妖気。つまり私は妖獣の子狐を抱きかかえているのです。
というのも私が庭で遊んでいるとこの子が現れて一緒に遊んでくれたのです。それでこの子が私に付いてきたので私はここでこの子を内緒で飼っているのですよ。
かれこれ四日前の話です。

まあ、それはさておき自己紹介をするのです。
私は姓は司馬、名は懿、字は仲達、真名は聖歌なのです。
そう！なんとあの三国志で魏の軍師で西晋の礎を築いた司馬仲達なのです。これには吃驚したのですよ。
そしてお母様は言わずもがな司馬防、あと六つ年上のお姉様に司馬朗、一つ年下の妹に司馬孚がいるのです。お姉様の真名は風歌、妹の司馬孚は蘭歌なのです。

いきなり転生してさらに女体化、その上司馬懿とか頭がおかしくな

りそうだったのです！！
それにこの体は無駄に廃スペックでして一度見たものなら絶対に忘れず自分の物にしてしまうとか、どれだけ無茶をしても疲れないし、大岩を片手で持ちあげたり、粉砕したり出来るんですよ、何の苦もなく、なのです。

意味がわからないのですよ。
確かに私がこの世界で生きていくには強い体が必要不可欠ですし、史実道理にならないために曹操対策とか必要だと思うのです。私、曹操嫌いなのですよ。
まあ、恋姫の世界では出番なかったと思うので問題ないと思うのですけども不安は残るばかりなのです。

「あっ！やっと見つけたわよ、聖歌。こんなところに隠れていたのね」
どうやら母様に見つかってしまったようなのです。
「何してたのかしら？」
「えと、な、なにもしてないのですよ？」
「嘘でしょう？今なら起こらないからお母様に何を隠しているのか教えてもらえないかしら？」
うぅ、お母様はにっこりほほ笑んでいるのですがその顔にはしっかりとした怒気が感じられます。
……こわいですよぉ。

「……そう、ならいいわ。そうね、聖歌がきちんと自分でお世話できるならこの子を飼ってもいいわ。でもできなかったら……お仕置きよ♪」
「（ビクビク）は、はぃ～」

お母様に事情を説明すると飼うことを許してもらう事が出来たのですよ！！
ふっ、私の手にかかればお母様もちょろいもｎ「聖歌！！」なっ！？心が読めるというのですか！何と言う事なのです。この鬼婆が読心術など使えるなど悪夢でしかないのですよ！！
「聖歌ぁ～、ちょっとこっちに来なさ～い」
ヒィ！お母様、その怒り顔のせいでただでさえ怖いお顔がさらに怖くなっているのですよ！！
「お仕置きね♪」
「いやあああっ！！！！！！！！」

その後、司馬防の部屋から幼い少女の悲鳴が聞こえたとか聞こえなかったとか。

あっ、あの子の名前は玉藻に決めたのですよ。

そのふざけた幻想・・・受け入れます（泣）（後書き）

とりあえずアンケート
お試し版で登場したトリッパー、藍川護を登場させるかさせないか。
期限は四話投稿までで

司馬懿、司馬徽に会う

「私は姓は司馬、名は徽、字は徳操、真名は蒼歌よ。よろしくね？」
「ひゃ、ひゃい。私は姓は司馬、名は懿、字は仲達、真名は聖歌でひゅ、よろひゅくおねぎゃいしましゅにゃのでひゅ！！」

あうあう、噛んじゃったのですよぅ。
初めて会う人だから緊張するのです。
あうあう。

「好々。聖歌ちゃんは礼儀正しいですね、好々」

あうあう、と、とりあえず落ち着くのです、私！

「あ、それで蒼歌さん。ここはどうなると思うのですか？」
「好々。ここはですね、こうやれば……」
あれから約十分間混乱した後、蒼歌さんの声でやっと私は落ち着いたのです。
いやぁ、まさか私が人見知りするタイプだったとは…。
今まで屋敷の外に出たことなかったし、知らない人に会ったのは初めてだったから気付かなかったなのです。

まあ、それはさておきなのです。
今、私の目の前にいるのは司馬徽こと蒼歌さんなのです。
それで私は今、この廃スペックな肉体を生かして曹操から逃げるために勉強しているのですよ。
それにしても、さすが水鏡先生なのです。
教え方も上手いし、知識も豊富なのです。それに物凄くスタイルのいい美人さんなのですよ！！
私もこんな女性になりたいのです。
残念ながらお母様は美人ですが胸は無に等しいのですよ。
ざまぁ見ろ、なのですよ。

それで何故、私が蒼歌さんと会っているかというと今日たまたま家に来ていた蒼歌さんにお母様が私の勉強を見てほしいと言ったからなのです。
私ももっと武だけでなく知も欲しかったので私からもお願いしたのですよ。
すると蒼歌さん好々と言って受けてくれたので蒼歌さんが帰ってしまうまでにできるだけその知識を吸収しているのです。

とりあえず今は知を高めるのです。
正直なところ武はお母様が使っていた氣というものを完全に習得した為に特別することがなくなってしまったのですよ……。
ちなみに氣は前にお母様が私の心を読んでいたですよね？アレが氣らしいなのです。
お母様が言うには氣とは人間だけでなく全ての生物が持っており、確か生命力が物質化したものらしいのですよ。
氣の応用次第では一騎当千の武を誇ったり、あらゆる怪我や病を治癒したり、天候を操ることなどが可能なのです。
まあ、氣の話はこれくらいにするのですよ。

それよりも私に新しい妹が出来たのです。
名は司馬馗、真名は琴歌なのです。
これで司馬八達の内、四人が生まれたのです。行動を起こすのはまだまだ先ですが、ある程度の計画を決めておかなくてはならないのです。
その計画というのが晋帝国の建国なのです。
晋を建国すればいかに曹操だろうと我ら司馬一族に手を出せないのです。
うざいのですよ、アイツは！！

まあ、ここで怒っていても意味はないのです。とりあえず今は知をこの国、いや世界一くらいにまでしておきたいのです。
普通に考えればありえないかもしれないですがこのチートスペックな肉体なら絶対とまでは言えないのですが、世界一の頭脳になれそうな気がするのですよ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9319z/

晋・恋姫†無双

2011年12月29日12時56分発行